

第2回委員会 委員からの意見と対応(案)

委員からの意見	対応方針
長期的な将来像について	
<p>○PORT2030の取組みの中から、各地区で実施する方向性を決めるべきである。その際、利用者の意見（ヒアリング等）が参考となる。</p> <p>○海外では港のゾーン化が一般的である（コンテナ専用バース、においの強い木材、チップは市街地から離すなど）。市街地からの距離は、徳島港区は近く、小松島港区は離れている。</p>	<p>●委員会での意見、利用者へのヒアリングで得られた意見を参考に徳島小松島港の特性を踏まえた長期イメージを整理したい。</p>
<p>○2030年に向けた徳島小松島港におけるクルーズ船、貨物船の方向性を定め、将来像を決めていく。道路整備との連携も重要である。具体的な計画は、利用者の意見を優先すべきである。特に、大きな課題の一つは、クルーズ船と貨物船の競合（沖待ちの発生等）と考えている。</p> <p>○港の整備と併せて道路整備も必要である。特に、四国を縦貫する全ての道路が整備されることが重要で、狭いエリアに限った検討は望ましくない。</p>	<p>●クルーズ船、貨物船の動向や周辺道路整備の状況に加え、利用者ヒアリングで得られた意見等を踏まえ、徳島県下だけでなく、マクロ的な視点で整理したい。</p>
<p>○貨物等の需要予測は難しく、港の整備には時間を要する。将来を見据えてインフラ整備に取り組む。情報を発信することで需要が変わることもある。想定外に変化する需要に対応することも必要。</p>	<p>●本委員会において中期構想（案）を取りまとめ、効果的かつ戦略的な情報発信に向け検討したい。</p>
<p>○クルーズ船の動向予測は難しい。超大型のクルーズ船は、主要港湾に集約する傾向にあるが、需要は超大型船に限らない。航空需要のようにパック旅行から個人旅行にシフトし、さらなる多様化が進む可能性もある。</p>	<p>●徳島県等が実施するポートセールスでは、大型船に限らず、ラグジュアリークラス（1万トクラス）を含めた誘致を行っている。これら需要を踏まえ、更なる検討を進めたい。</p>

第2回委員会 委員からの意見と対応(案)

委員からの意見	対応方針
<p>○本港地区の安全支援港（船舶の修理や、船員交代、休息などが行える港）は、検討を重ねて必要なものを詰めなければならない。実現すれば、大型船は利用できないが小型船が利用でき、人流と物流が混在できるマルチユースの港になる可能性がある。</p> <p>○今後、船舶の自動化や自動化による少人数化が進む中でトラブル対応能力を備えた港になれば、価値は高まる。太平洋の沿岸、瀬戸内海の入り口という好立地である。内航船が外航バスを利用することで、荷役中に下船出来ないケースも増えている。食料や水、生活必需品の購入や入浴による精神的ケアが重要となる。</p>	<p>●「安全支援港」は、徳島小松島港の特性を活かした着眼点であり、今後、どのような対策が必要なのか専門家のご意見を伺いながら、更なる検討を進めたい</p>
小松島港区活性化プラン（素案）について	
<p>○船舶の修理や、船員交代、休息などが行える「安全支援港」や「休憩港」のキーワードを残して欲しい。港からの視点があるべきだ。</p>	<p>●「活性化プラン」に「安全支援港」、「休憩バス」のキーワードを盛り込みました。</p>
<p>○今後、具体的な中身を検討し、公と民の役割を調整することが必要である。</p>	<p>●「活性化プラン」の策定を踏まえ、今後関係機関と連携しながら取り組んで参りたい。</p>
<p>○近年、健康志向が高まっている。公園・kocoloでの健康活動の一環として、リフレッシュ機能（シャワー等）の記載をして欲しい。出勤前・帰宅途中の会社員や、運動不足になりがちな内航船乗組員の需要が見込める。</p>	<p>●「活性化プラン」に「リフレッシュ機能」を盛り込みました。</p>